

薬剤師 処方変更等で成果

薬物血中濃度測定に積極介入

北光記念

東区の北光記念病院（大城辰美理事長、櫻井正之院長・145床）は、

薬剤師が入院・外来において、中毒症患者が多い循環器薬の血中濃度測定に積極的に介入。処方の変更や変更を促して、対象患者の割合が減少するなか、成果を上げていく。

同病院は、循環器薬の薬物血中濃度モニタリング

に関するガイドラインをもとに、2015年11月～16年10月に、入院・外来患者1974人を対象

に、循環器薬の中毒症の調査を実施。抗不整脈薬「ジゴキシン」と「ピルシカイド」の使用者に、中毒症の患者が多く、前者は87%が、後者は全

て外来患者だった。27件だった。

測定にも積極的に介入する一方で、中毒症の患者が減少し、薬剤変更の割合が大層に増えたこと

に、これら2剤の薬物血中濃度測定を実施する全患者に薬剤師が介入する取り組みを開始。週1回データを分析して医師に処方変更等を提案して

いる。薬剤師が入院だけでなく、外来の薬物血中濃度

測定にも積極的に介入する一方で、中毒症の患者が減少し、薬剤変更の割合が大層に増えたこと

この結果を踏まえ、17年11月から入院・外来と

薬剤師が入院だけでなく、外来の薬物血中濃度

測定にも積極的に介入する一方で、中毒症の患者が減少し、薬剤変更の割合が大層に増えたこと

中毒症にあった患者について、薬剤師介入前後

薬剤師が入院だけでなく、外来の薬物血中濃度

測定にも積極的に介入する一方で、中毒症の患者が減少し、薬剤変更の割合が大層に増えたこと

薬剤師が入院だけでなく、外来の薬物血中濃度

測定にも積極的に介入する一方で、中毒症の患者が減少し、薬剤変更の割合が大層に増えたこと

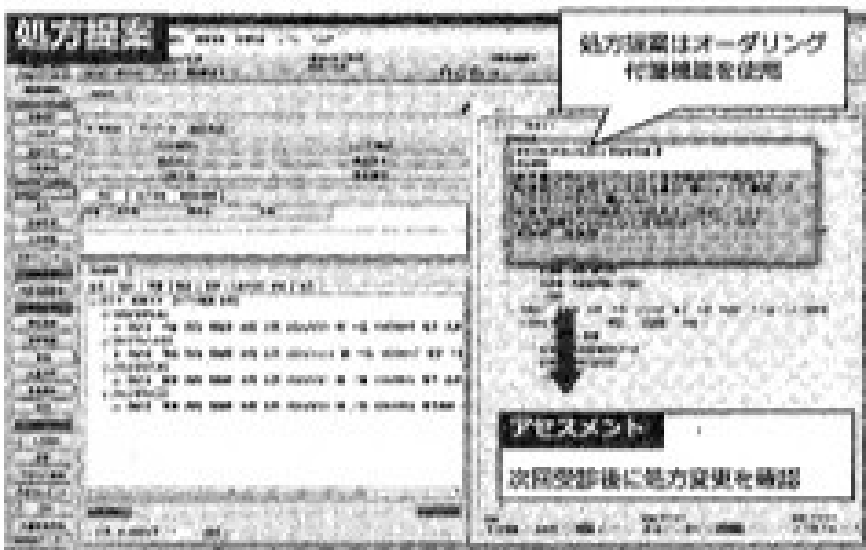
測定にも積極的に介入する一方で、中毒症の患者が減少し、薬剤変更の割合が大層に増えたこと

薬剤師が入院だけでなく、外来の薬物血中濃度

測定にも積極的に介入する一方で、中毒症の患者が減少し、薬剤変更の割合が大層に増えたこと

測定にも積極的に介入する一方で、中毒症の患者が減少し、薬剤変更の割合が大層に増えたこと

循環器薬TDM確認システム



薬物血中濃度モニタリング確認システム